

専齋 | **SENSAI**



今年で11回目となる長崎医療センター健康フェスタが開催されました。
 鏡視下治療シュミレーターを使ったデモは大人気です。沢山の明目の外科医が、ブースを訪れてくれました。

長崎医療センター座談会

千燈照院
 緩和ケア

診療科特集

Vol.3 乳腺・内分泌外科

TOPICS

- ・第70回国立病院総合医学会特集
- 1) QC活動受賞報告
- 2) ベスト口演賞受賞報告
- 3) ベストポスター賞受賞報告
- 4) ランチョンセミナーでの発表
- ・新任医師紹介
- ・健康フェスタを開催して

- ・国際医療ボランティア報告
～カンボジアでJapan Heartに参加して～
- ・忘年会を振り返って
- ・職場紹介 3B病棟
- ・職場のホープ
～3B病棟 黒田 由依香★鶴嶋 祥子～
- ・栄養管理室だより

**医療センター講演・研修・テレビ出演等
 編集後記**

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

長崎医療センター

座談会 Vol. 16

千燈照院

緩和ケアチーム

チーム医療紹介の第2弾として、緩和ケアチームにお話を伺いました。苦痛の軽減につながる"right time, right place, right collaboration"とは?

急性期病院での緩和ケアのあり方についても議論が進んだようです。

座談会出席者

精神科医長 蓬萊 彰士
 緩和ケア内科医師 鎌田 理嗣
 緩和ケア認定看護師 堀田 美幸
 聞き手: 院長 江崎 宏典

千燈照院とは…
 長崎医療センター千人の職員
 が力を合せて高度医療の実現
 にまい進する姿勢を表す言葉。

江崎: 本日は緩和ケアチームの主要メンバーに集まって頂きました。まず具体的な活動内容を教えてください。

鎌田: 毎週月曜日チームのカンファレンス後、全病棟をラウンドしております。他の曜日では私と専従の堀田看護師とで毎日回診しております。チームの依頼件数も年々増加しており、今年は1月からで210件となっております。

江崎: 実際どのくらいの患者さんを診られているのですか。

鎌田: 入院患者さんは20名前後です。

江崎: 当院の在院日数は約11日の中で、常時20名前後診られているのですか。

鎌田: 以前より回転数が早くなっている印象があります。

江崎: 緩和ケアチームは、主治医からの依頼で対応しているのですか。

鎌田: 主治医だけでなく、どの職種、ご本人・ご家族でも依頼は可能です。ただし主治医への報告が必須です。

江崎: 看護師さんからも、必要な患者さんの掘りおこしをしているのですか。

堀田: がん拠点病院の要件に苦痛のスクリーニングという項目がありますので、入院中必ず緩和ケアの介入を希望するか否かを確認します。

江崎: 1日約40～50名の入院患者さん全員にしているのですか。

堀田: がん患者さん以外の患者さんでも痛みで困られている方、せん妄で悩まれている方も多いため

スクリーニングをすることにより早めの対応をすることが可能となっております。

江崎: 緩和というと疼痛のケアが主ですが、せん妄の方も対象となるのですか。せん妄は多いですか。

蓬萊: せん妄はオピオイドやステロイドなどを使用したりされる方に多いですね。身体症状がシビアな方も多く、そのような要因からせん妄をきたすことが多いと思います。

江崎: せん妄以外の不安とかも対象になるのですか。

蓬萊: 患者さんの苦痛はさまざまに身体症状のコントロールがうまくいかないことや、経済的問題、家族関係等の心理・社会的苦痛も多くなっております。死が近づくことによる実存的苦痛(スピリチュアルペイン)も多いです。呼吸困難や吐き気など身体症状の訴えの背景が、実は精神的な不安であったケースもあります。

江崎: 緩和ケアチームとして色々な介入をされていると思いますが、介入の効果はいかがですか。

鎌田: 緩和ケアを適切に行くと予後が延長するという論文もあります。治療が継続できる期間が長くなっているようです。

堀田: 化学療法中の方や放射線療法の治療中で副作用コントロールがうまくいかなかった方に介入するケースも増えてまいりました。副作用コントロールができれば治療継続もうまくいきます。引き続き外来治療が継続可能となった方も多くいらっしゃいます。

江崎: 外来の患者さんも緩和ケアの対象になるということですが、そのような方は外来でカウンセリングされているのですか。

鎌田: 緩和ケア内科外来にて治療を継続しており、患者数も増えてきております。患者さんの負担を少しでも減らせるように、化学療法中の方は往診した



精神科医長

蓬萊 彰士

(ほうらい しょうじ)

平成22年より現職



り、主治医の外来の後に診察するなど心がけて対応しております。

江 崎: 緩和ケアにより苦痛が緩和され、闘病意欲が沸き予後の改善につながっているのですね。今後の課題は何でしょうか。

鎌 田: 地域連携です。急性期病院ですので、退院後の地域での体制を十分に整えられないまま退院になるケースもあります。早い段階で当院と地域で役割分担ができれば、患者さんは地域で過ごしやすくなり、治療科の先生のご負担も軽減できるのではないかと思います。

江 崎: 改善するには早め早めの対応が必要ということですね。退院調整はどのような体制にしておりますか。

堀 田: 患者さんの意向を確認し、各病棟の退院支援担当看護師との情報共有、ソーシャルワーカーとの連携をしながら体制を整えております。

江 崎: 地域緩和ケア連絡協議会を作ったほうがいいのではないのかという意見もありますよね。

蓬 菜: 昨年緩和ケア研究会で在宅看護ステーションの方々との勉強会に参加した際、現場と密な連絡を取り合うことの必要性を改めて感じました。現場の考え・取り組みが大変参考になりました。

江 崎: 急性期の治療であっても慢性期や病気の経過を視野にいれないといけないですね。急性期病院における緩和ケアはどのようにあるべきかと考えますか。

鎌 田: 緩和ケアの対象は化学療法をされている方が多いです。早期から緩和ケアのことも考慮に入れた対応をすることにより、症状や基礎疾患への対応を早い段階から地域の先生方へお願いすることもできます。その結果症状緩和目的の入院の減少、患者さんのQOLもあがるのではないかと考えます。

江 崎: 早期からの緩和ケア導入の見極めと、地域の先生方とどのように連携するかということですね。

鎌 田: 症状コントロールは、依頼から退院までにある程度結果をだすことはできます。しかし、痛みに対してロキソニンやカロナールの頓服が処方される時期から、すでに緩和ケアは始まっているのではないかと思います。現実にはその時期に緩和ケアチームへのニーズは小さく、コントロールに難渋する時期には病状が進行しており、地域で生活することが難しいことが多くなります。もっと手前の時点で、今後様々な症状コントロールが必要になることを見越して、症状コントロールや基礎疾患への対応は地域の先生にお願いするという流れを作ることができればと考えております。

江 崎: 地域連携をする上でどのようなことが必要と考えますか。

鎌 田: ACP(アドバンスケアプランニング)という概念があります。早い段階で患者さんにどの時期はどことどういう風に過ごしたいかを確認することで、そ

れぞれの患者さんに応じた拠点病院と地域の医療機関での役割分担が可能になるのではないかと思います。

江 崎: ACPはどのタイミングでするのが良いのですか。

鎌 田: 決まったタイミングがあるわけではありませんが、最初の段階の化学療法の効果が乏しくなり治療の変更や中止をする時点が、そのひとつだと思います。

江 崎: 緩和ケアをどの時期に、誰が行うかも問題ですね。今は国としても積極的に緩和ケア研修会の受講をよびかけていますよね。

蓬 菜: がん診療に携わる医師はもちろんのこと、研修終了5年目までの医師はすべて対象となっております。緩和という概念をすべての先生方に日々の診療で持ってほしいというのが目標です。様々な分野の苦痛に関心をもっと持ってほしいと思います。

鎌 田: 当院でも実施しているPEACE(緩和ケア研修会)により緩和に関しての考えが浸透しています。それでも精神面で最後まで過ごすかが決まっていないと、患者さんが幸せに過ごすことができないケースもあります。

江 崎: ACP等を実施し、先を見据えた対応が必要ですね。

鎌 田: 緩和ケアを化学療法の診療計画に組み込んでいただくことにより、円滑に地域連携もすすめることができるのではないかと思います。

江 崎: 看護ではがん関連の認定看護師が増えていると思いますが、連携はどのようにされていますか。

堀 田: 当院では専門分野毎(乳癌以外)の認定看護師がそろっており、がん患者さんへの病状説明時同席する体制、カウンセリングの体制は整っております。今後は在宅に帰られた際、地域の看護師さんが困ったときに相談できる場所として活用していただく方法が何かないか模索中です。

江 崎: 地域全体のがん看護のレベルをあげるシステムづくりは大事な課題ですね。

蓬 菜: 急性期病院として、緩和ケアの普及の推進、緩和ケアのあり方について模索し続けていくのが大事と思っております。

江 崎: 緩和ケアは回復期・慢性期だけでなくそれぞれの分野でやるべきであり、連携はとても大事ですね。本日はどうもありがとうございました。



緩和ケア内科医師

鎌田 理嗣

(かまた まさつぐ)

平成26年より現職



診療科特集 Vol.3

乳腺・内分泌外科

乳腺・内分泌外科の特徴

1. 県下第一位の乳癌症例数
2. 県下唯一の鏡視下甲状腺手術認定施設
3. JCOG等の全国レベル臨床研究推進

スタッフおよび施設認定

当院外科はスタッフ10名とレジデント2名で構成されています。

前田茂人乳腺・内分泌外科医長は、長崎大学第二外科乳腺・内分泌班チーフを8年担当した後に当院へ赴任し、乳癌診療を中心に現在10年目を迎えています。本年度より森田道医師が加わり、スタッフ2名とパワーアップしました。

日本乳癌学会認定施設、日本内分泌外科学会認定施設、日本甲状腺外科学会認定施設、鏡視下甲状腺手術認定施設であり、外科学会専門医取得後のスペシャリスト育成が可能です。乳癌診療は、放射線科、病理診断科の協力・応援のもと、薬剤師、病棟看護師、外来看護師、外来化学療法看護師、認定看護師、ソーシャルワーカー、ドクターズクラークによるチーム医療を行っています。

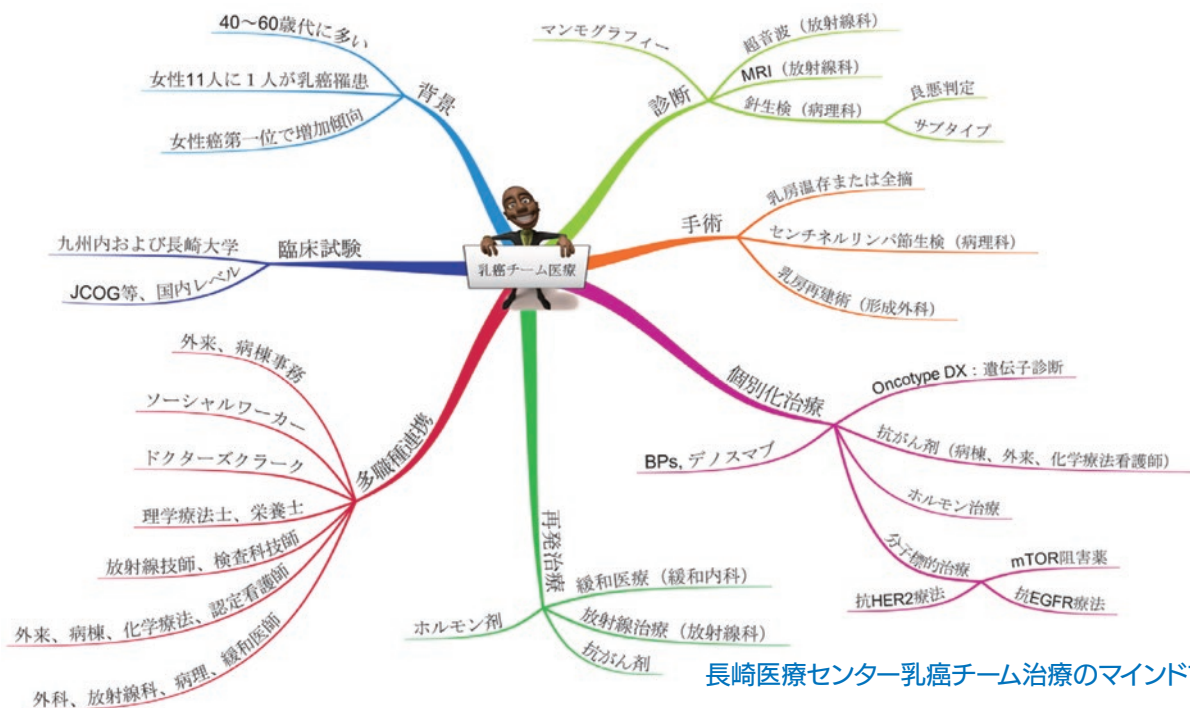


前田 茂人

日本乳癌学会(認定医・専門医)、日本内分泌学会(専門医)、マンモグラフィ読影(認定医)、日本乳癌学会(評議員)、日本内分泌外科学会(専門医・評議員)、日本内分泌・甲状腺外科学会(専門医)、日本甲状腺外科学会(評議員)、九州外科学会(評議員)、小切開・鏡視外科学会(評議員)、日本がん治療認定医機構(認定医)、ASCO member

森田 道

日本乳癌学会(認定医)、マンモグラフィ読影(認定医)

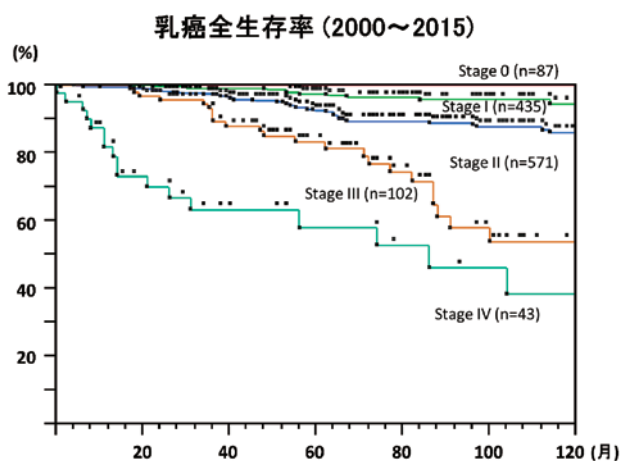


長崎医療センター乳癌チーム治療のマインドマップ

乳癌症例数と10年生存率

2014年の手術ランキング(週刊朝日MOOK「手術数でわかるいい病院2016」(朝日新聞出版発行))では、九州で第15位であり、県内では第1位の手術数でした。2007年からの累積手術数は1,000人を超えています。また、手術だけでなく、術後補助療法や再発治療として、抗がん剤やホルモン治療で関わった人の累積は1,500人以上になります。

乳癌は、手術だけでなく抗がん剤やホルモン剤そして分子標的治療薬が良く効きます当院における10年生存率は、ステージ0:100%、I:94%、II:86%とステージIIまでなら約90%の人に10年生存が期待できます。また、遠隔転移のあるステージIVの方の10年生存率が38%であり、転移があっても長生きできるチャンスはあります。



鏡視下甲状腺手術

甲状腺の病気は若い女性に多い傾向があります。

甲状腺の手術は元来頸部に手術創が残るため、美容上問題となることがありました。そこで、頸部に手術創を残さない内視鏡補助下甲状腺手術(VANS)を導入し、当院は長崎県で唯一の認定施設になっています。

臨床研究の推進

当科では、全ての治療を標準治療(ガイドラインに準拠)か、または臨床試験への参加を目指しています。多くの場合は標準治療で治癒できますが、時にはガイドラインに準じるだけでは治療法が限られる場合があります。

臨床試験への参加は、全国レベルの医療提供や情報

治療の目的は「長生きできる」と「QOLの維持」です。癌と診断された人が、「その人らしく長生きできる」ように、科学的根拠に基づき(Evidenced Based Medicine: EBM)つつ、その人の人生設計(物語)に寄り添える(Narrative Based Medicine: NBM)ように努めています。当院の看護理念「その人がその人らしく」生きられるように、長崎医療センターで何が出来るかを患者さんと一緒に考え、最新の医療を提供しています。



乳癌全生存率

	長崎医療		日本乳癌学会	
	5年生存率	10年生存率	5年生存率	10年生存率
stage 0 (n=87)	100	98	100	96
stage I (n=435)	97	97	94	89
stage II (n=571)	93	91	86	79
stage III (n=102)	83	72	54	55
stage IV (n=43)	58	43	38	26



第70回国立病院総合医学会特集

1) QC活動受賞報告

QC活動プロジェクトチームリーダー 診療放射線技師長 松永 博



今年度のQC活動には各部署から40題のエントリーがあり、例年通り発表会・評価会を通して最終的に18題国立病院機構本部へ応募しました。

10月4日に機構本部から結果報告があり、チーム名「結果にコミットすったい!」(臨床検査科・輸血療法委員会)の「「ちょっと待った!」その検査オーダー必要ですか?～算定できない不規則抗体の削減を目指して～」が見事、九州グループ特別優秀賞を受賞しました。10月18日に機構本部で執り行われた表彰式には、沖検査技師長と奈良技師が参列しました。

又、機構本部が「できることから始めよう!国立病院機構QC活動奨励表彰」を開始して節目の10期目にあたることから、例年のチーム表彰に加え、意欲的にQC活動に取り組んできた病院(10年間の応募件数

が50件以上又は10年間毎年応募があった病院)を「QC活動奨励表彰10周年記念賞」として表彰することになり、当院は(10年間の応募件数が50件以上)あることから受賞の榮譽に浴することになりました。表彰式は11月11日の国立病院総合医学会全員交流会で執り行われ、私が代表してクリスタル楯を受領しました。

今後も職員一丸となってQC活動の活性化に努めていきたいと思えます。



2) ベスト口演賞受賞報告

臨床研修医(2年次) 白濱 つづり

秋も深まり寒さも身にしみ始めた11月11日～12日の2日間にわたり、第70回国立病院総合医学会が沖縄で開催されました。私も今回、初期研修医セッションに参加しました。「MYBPC3変異を有する遺伝性急性心筋



炎の一部検例」というタイトルで以前、当院のCPCで研修医2年目の竹中、松本と扱った症例を発表させていただきました。小児の剖検例で複雑な症例であり、臨床的・病理学的に一連の病態を捉え、考察することの難しさを実感しました。このような症例を通して得た事実を、さらに今後の診療に繋げていくことの必要性も改めて認識されました。

またこの度は、ベスト口演賞を頂きましたことを謹んでご報告申し上げます。ご指導いただきました桑原先生、伊東先生をはじめとした先生方には、この場をお借りしてお礼申し上げます。研修医の時から、学会発表の機会を与えていただけることを大変嬉しく思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

3) ベストポスター賞受賞報告

予約入院支援センター 副看護師長 徳永 友子

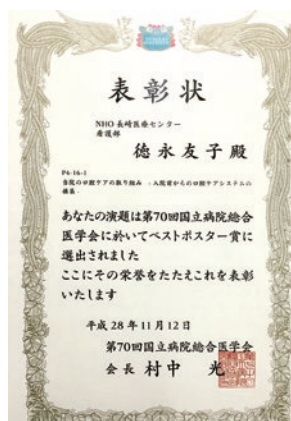
平成28年11月11日・12日に沖縄県宜野湾市で行われた第70回国立病院総合医学学会に参加し、『当院の口腔ケアの取り組み—入院前からの口腔ケアシステムの構築—』というテーマで発表を行い、ベストポスター賞を頂きました。

予約入院支援センターは平成24年4月開設され、看護師による入院案内・病歴聴取・口腔内チェック、歯科衛生士による指導、薬剤師による常用薬の確認と休薬説明を行っています。歯科を標榜していない当院では、歯科疾患が原因で入院治療の中断なく入院前に可能な歯科治療を受けてもらうよう平成26年7月より入院前の口腔内アセスメントを開始しました。

今回、歯科衛生士・副看護師長口腔ケア研究グループ合同で勉強会を行い、予約入院支援センターと病棟で使用していたアセスメントシートを統一することで、入院前から入院後までの継続した口腔ケアシステムが構築された内容の発表を行い、院内全体での取り組みを

評価していただきました。

共同研究者の歯科衛生士さんと沖縄モズク・沖縄豆腐など郷土料理を堪能し、首里城・旧海軍司令壕で沖縄の歴史にふれ、思い出深い学会参加となりました。



4) ランチョンセミナーでの発表

企画課長 馬渡 永年、企画課契約係 池野 志歩

国立病院総合医学学会に参加させていただき、1日目のランチョンセミナーにおいて九州グループを含む管内5病院(九州、嬉野、長崎、熊本、鹿児島)から『病院経営基盤の強化のための企画課の役割について考える～各病院での取り組みと九州グループ内での連携の事例～』をテーマに、それぞれの病院が実施している経営改善方策の発表を行いました。当院はグループ外の共同購入組織(NHA)に参加していることもあって「共同購入組織を活用したコスト削減」について、地域や経営母体を越えた組織で購買力を結集し1病院ではなし得ないボリュームディスカウントを享受、さらにメーカーとの直接交渉とシェアコミット型で診療材料費の削減を図ってきた成果を述べました。もちろん、これらを実行して成果を上げるには、診療材料委員会を中心として各診療科の先生方のご理解とご協力が大前提にある

ことは言うまでもありません。今回は、発表する各病院の院長先生方も会場に足を運んでいただいております。演台から江崎院長のお顔を拝見したときには、頭の中の原稿が半分飛んでしまいました。へたな事は言えんな、と。自分の発表前には会場を見渡さない方がいいですね。



新任医師紹介



小児科医師
金城 勤也

昨年10月より当院から“長崎県 島原病院”
に出向しておりました。12月2日付けで1年

1ヵ月ふりに戻ってまいりました。再び医療センターで働ける
ことを光栄に思っております。

他科の皆様にはいろいろとお世話になるかと思います。
よろしく願い申し上げます。

TOPICS

健康フェスタを開催して

健康フェスタ実行委員 庶務班長 宮本 洋一

平成28年11月26日(土)に今年で11回目となる長崎医療センター健康フェスタを開催いたしました。「マモ〜レ♡みんなの健康を!!健フェスへGO!」をテーマとし、今年も骨密度や血糖、視力などの測定コーナーや心臓病、糖尿病、腎臓病など病気についての勉強コーナーやお菓、

栄養などの相談コーナーなど多数のブースを出展しました。

どのブースにも沢山の方が集まり、熱心に話を聞いておられました。来場者数は去年の800名を上回る約1000名の方にお越しいただき、盛況のうちに幕を閉じることが出来ました。参加頂きました皆様に感謝いたします。有り難うございました。



TOPICS

国際医療ボランティア報告 ～カンボジアでJapan Heartに参加して～

臨床研修医(2年次) 中村 俊貴

今回、私はJapan HeartというNGOを通じて、カンボジアのAsia Alliance Medical Center (AAMC)という病院でボランティア活動をしてきました。カンボジアは、約40年前のポルポト政権下で300万人が虐殺され、国内に残った医師は40人と言われています。そのため、医療レベルは大変低く、現在の平均寿命は68歳です。AAMCは、カンボジアの貧しい人々に医療を届けるとともに、現地スタッフの教育を目的とした病院で、診療は全て無料です。今回の活動では、AAMCでの外来診療、手術の助手、救急対応、掃除等をさせて頂き、当院で身に付けた診療が海外でも十分に通用すると感じました。また、現地

医師やボランティア参加者のカンボジアの医療を発展させたいという熱意を直に感じると同時に、現地の方々の言語力の高さに驚きました。(現地医師は、クメール語、英語、フランス語が話せます。)今後、さらに診療能力や言語力を磨き、国際医療にも貢献できる医師となって、カンボジアを再訪したいと思います。



TOPICS

忘年会を振り返って

臨床研修医(1年次) 芦澤 博貴

2016年12月9日に長崎医療センター院内忘年会が開催されました。昨年に引き続き今年も多くの職員方が参加され、大盛況の忘年会となりました。

第1部では今年、素晴らしい功績を上げた方々へ表彰が行われました。

第2部では今年1年の出来事をOPムービーで振り返り、『ぺこ&りゅうちる』に扮した私と阿部先生の司

会のもと、大余興大会が開催されました。

余興は薬剤部チームの『恋ダンス』やNICUチームの『PPAP』など今年世間を賑わせたものから、懐かしの名曲に合わせてダンスを披露してくださった看護師長チーム、当院の今年1番のイベントをもじった研修医チームなど、様々なパフォーマンスで会場を盛り上げて頂きました。結果は研修医チームが見事連覇を果たし、PPAP賞にはNICU橋本先生が選ばれ、大成功の忘年会でした。

2017年もここ長崎医療センターを盛り上げていきましょう。

学術奨励賞 表彰

	受賞者	タイトル
1	橋元 悟 (肝臓内科医師)	Rapid Increase in Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol Concentration during Hepatitis C Interferon-Free Treatment. PLoS One. 2016 Sep 28;11(9):e0163644
2	岩永 希 (リウマチ科医長)	TAFRO症候群類似の臨床像を呈した原発性シェーグレン症候群の1例. 日本臨床免疫学会誌 39(5):478-484,2016.05.19
3	野中 隆 (外科医師) (現 長崎大学病院第一外科)	Clinical and Oncological Outcomes of Laparoscopic Versus Open Surgery for Advanced Rectal Cancer. Anticancer Res.2016 Oct;36(10):5419-5424
4	山下 舞 (リウマチ科研修医)	好中球減少に対してガンマグロブリン大量療法が著効した双極性障害に合併した全身性エリテマトーデスの一例. 九州リウマチ 36(2):106-111,2016.10.



功労賞 表彰

【団体部門】

	グループ名	代表受賞者	受賞理由
1	特定共同指導シミュレーションチーム	濱脇心臓血管外科医長 本村小児科医長 黒木外科治療研究部長 荒木総合診療科医師	“医科特定共同指導”に対する、『個別指導』の職員訓練への貢献、また、『院内巡視』における職員訓練への貢献が格別なものであった。
2	看護必要度25%維持継続グループ	井手看護師長 井口看護師長 久原看護師長 酒谷看護師長 北川看護師長	毎日、重症度、医療・看護必要度の確認を行い再確認等のフィードバックを行い25%維持ができています。

【個人部門】

	職員名	役職名等	受賞理由
1	山口 夏紀	看護師	ドラッグストアの店内で具合が悪くなっている一般市民の状態を即座に観察し低血糖発作と判断し対処し感謝のお手紙が来た。

健康フェスタ 標語の部表彰

【個人部門】

	職員名	役職名等	受賞理由
1	原田 瑞紀	栄養管理室	第11回健康フェスタにおける標語募集における第1位

職場紹介

3B病棟看護師長 酒谷 紀子

【3B病棟】

3B病棟は医師9名、JNP1名、看護師等33名が所属する脳神経疾患センターです。入院患者は手術や検査予定の患者さんと、救命センターに緊急入院し症状が落ち着いた患者さんです。急性期の患者さんの意識レベル等に変化がないか注意深く観察を行い、術前術後や、脳波モニタリング等の検査を受ける患者さんの回復期から退院支援まで健康問題に幅広く関わっています。毎日、リハビリを兼ねたシャワー浴や車椅子移乗を行っているため、スタッフは体力に自信があり、みな筋骨隆々(?)です。また、脳卒中後の障害を持った患者さんが、摂食嚥下機能や運動面で回復されていく姿を目にすることができたときには、看護師としてやりがいを感じています。合併症を起こさずに受傷前のその人らしさを取り戻すことを目標に、毎日笑顔で援助を行っています。



3B病棟副看護師長 小淵 しのぶ

【職場のホープ ～3B病棟 黒田 由依香★鶴嶋 祥子～】

4月から新しく3Bのメンバーになった2人を紹介します。黒田由依香は活水大学卒業、鶴嶋祥子は九州医療センター附属看護学校を卒業し、地元である長崎医療センターへやってきました。当初は表情も言葉も緊張が見られていましたが、最近では笑顔が引きつることなく患者さんやスタッフと会話する姿があり、スタッフからの突っ込みにも耐えられるようになりました。また、9ヶ月経った今は「患者さんが退院していく姿を見られて嬉しい」という言葉が聞かれ、自分自身のことだけで精一杯だった2人が、患者さんに目を向けられるようになり、確実に成長を感じています。プライベートでは黒田は社会人バスケットボールのチームに所属していますが、休日はaikoの音楽とDVD鑑賞に没頭し、鶴嶋もDVD鑑賞をしているインドア派の二人です。

このような二人でありますが、脳神経疾患センターのエキスパートナースを目指し日々頑張っていますので今後も二人をよろしく願います。



TOPICS

栄養管理室だより

栄養士 原田 瑞紀

当院で患者さんから好評であったメニューのレシピを紹介したいと思います。今回は、寒くなってきた今の時期にぴったりな「茄子と鶏肉の味噌田楽」です。これから旬を向える深ネギを付け合せに使用しております。とってもおいしい1品です。



(1人前) 約240 kcal、塩分1.3g

<材料> (2人分)

鶏もも皮付き40g 4切れ	サラダ油	4g(小さじ1)	
※鶏もも皮なしに変更すると約60kcalカットできます。	八丁味噌	12g(小さじ2)	
なす	味噌	6g(大さじ1)	
60g(1/2本)	砂糖	6g(小さじ2)	
深ねぎ	みりん	6g(小さじ1)	
60g(1/2本)	酒	6g(小さじ1)	
食塩	0.2g(適量)	昆布だし	40ml(大さじ1と1/2)

<作り方>

- ①なす、深ねぎを食べやすい大きさに切る。
- ②油を引いたフライパンで、鶏もも肉、なす、深ねぎを焼き、焼きあがった深ねぎには塩をふる。
- ③Aを混ぜ弱火で加熱しながら、昆布だしを加え、ほどよいとろみになるまでかき混ぜる。
- ④②で焼いた鶏もも肉、なす、深ねぎを皿に盛り、③の味噌だれをかけたら完成!!

★森調理師より一言アドバイス★

八丁味噌が決めての一品です。付け合せに香ばしく焼いた深ねぎと茄子は、味噌だれとの相性もバッチリです。ご家庭でも試してみたいかがでしょう。



医療センター講演・研修・テレビ出演等(1月)

(敬称略)

第8回がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
1月26日(木)	18:00~19:30	人材育成センターあかしやホール	化学療法の副作用対策・消化器症状(下痢・便秘・口内炎)について 薬・看護の視点から	がん薬物療法認定薬剤師:金澤 絵莉 がん化学療法看護認定看護師:富永 美希

NST勉強会

開催日	時間	開催場所	内容	講師
1月30日(月)	18:00~19:30	人材育成センターあかしやホール	終末期の栄養管理	緩和ケア内科医師:鎌田 理嗣 管理栄養士:有働 舞衣

CPC

開催日	時間	開催場所	内容	講師
1月31日(火)	18:30~20:00	人材育成センターあかしやホール	治療抵抗性悪性リンパ腫	症例担当: 杉川 知香、木下 麻莉子、村本 奈央 臨床指導: 牧山 純也 病理指導: 伊東 正博

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。 <http://www.nagasaki-mc.jp/pages/205/>

●編集後記

肝炎治療研究室長 長岡 進矢

松岡先生

10月4日、当院統括診療部長であり、広報誌SENSAIの編集長でもあった松岡陽治郎先生が逝去されました。

松岡先生は初期研修を当院(当時、国立長崎中央病院)で修了され、大学病院時代を除く30年の間、当院で勤務されました。放射線科医としての卓越した読影力はもちろん、音楽や芸術にも造詣が深く本当に魅力的な方でした。

診療部長就任後は、病院経営、患者サービスの充実、広報活動などの膨大な業務を職員の先頭に立って指揮してこられました。また、若手の教育にも情熱を注がれ、きびしい中にも愛のある指導を様々な場面でしていただきました。進路に悩む研修医にも、それぞれの個性に応じた的確なアド

バイスをいただきました。当院を巣立った多くの研修医達が先生に感謝しています。私個人としては、当院の研修医同窓会「あかしや医師の会」の設立、これまで2回開催した同窓会総会での苦楽が先生との一番の思い出です。

医療を取り巻く環境は厳しいものがありますが、松岡先生が愛した、長崎医療センターが地域の拠点病院として発展し、若い人が集う活気ある病院であり続けるよう努力してゆきたいと思えます。先生の当院に対する深い愛情の一端は、SENSAI 平成28年4月号の編集後記、以前の広報誌に寄稿された「長崎医療センターという人物」で感じ取っていただけたと思います。

松岡先生のご冥福を心からお祈りいたします。

長崎医療センターという人物

長崎医療センター(当時国立長崎中央病院)にはじめて研修医としてお世話になって三十年、うち、長崎大学にいた七年半を除き、ずっとこの病院で働いている。これだけ付き合いが長くなると、僕の気持ちの中では、長崎医療センターは生活の糧を与えてくれる単なる勤務先の病院というより、二個の人格をもった親しい友人のような気が、いつの頃からか、している。

彼(以下、長崎医療センターのこと)は、何度か名前も変わったし、外見も十年ほど前に一気にモダンに変身したが、お金をかけた割には泥臭く、そこが彼らしいともいえる。中身は電脳化されIQは相当アップしたが、素朴さを残した魂に変化はあまり見られないようだ。彼は海軍病院として生まれ育ち、国のために戦い傷ついた軍人さんたちの面倒をみていた。その後、国立病院をへて今はNHQ病院として活躍している。その生い立ち故か、公共心はとても強く、特に地域のためにという思いにはひとかたならぬものがある。離島僻地の多い長崎県の救急医療や周産期医療は彼なしには考えられない。

彼は図体がでかく、小回りはきかない。頑固で気が利く方ではないが、一度決めたならやりとげるといふ芯の強さはもっている。田舎者で一見保守的にみえるが、実は冒険心に富み、慎重さと進取の気性を合わせもつ。そういうところは皆から一目置かれていたようだ。

彼はいつも忙しいが、目先のことだけではなく、遠くを見つめ先のことを考える思慮深さがある。この姿勢が、自ずと彼に一種の行まいというか、風格を与えている。故寺本名誉院長や米倉前院長が「風格のある病院」を目指すとき、常々おっしゃっていたが、こういう先人の長年にわたる躰が身についてきたのかなと思う。「風格のある」とは、目の前の診療は勿論、その先にある研究や教育、国際協力など、次元の高い、実行困難だが将来の日本に必要とされるであろう事項に敢えて挑戦し続ける姿勢のこと、風格の意味を自覚している彼はストイックな理想主義者でもある。

僕は、彼に彼の思う理想の旗を掲げ大きな道の真ん中を堂々と歩み続けてほしいと願う。彼の高邁な理想主義が厳しい現実の前に挫折しないですむように僕は僕のできることをしていきたいと思う。

統括診療部長 松岡 陽治郎

外来診療担当医一覧表

(★は新患対応)平成29年1月1日～

		月	火	水	木	金	
総合診療科	第1新患	★辻 良香 ★大野 直義	★荒木 利卓 ★道辻 徹	★森 隆浩 森 英毅	★森 英毅 森 隆浩	★和泉 泰衛	
	第2新患		和泉 泰衛	荒木 利卓		大野 直義	
	内科 専門外来	肝臓 (消化器)	★内田 信二郎 ★戸次 鎮宗 ★長岡 進矢 ★阿比留 正剛	★佐伯 哲 ★戸次 鎮宗 ★内田 信二郎	★八橋 弘 ★小森 敦正 ★山崎 一美	山崎 一美 ★長岡 進矢 ★小森 敦正 ★橋元 悟	★阿比留 正剛 ★橋元 悟
			消化管	★西山 仁	★後藤 高介 ★福田 浩子	★西山 仁	
		内分泌・代謝	明島 淳也	藤田 成裕(糖尿病) ★池岡 俊幸	藤田 成裕	池岡 俊幸(再来のみ)	
		腎臓	★辻 清和		川崎 智子 ★高木 博人	高木 博人 ★川崎 智子	辻 清和 ★川崎 智子
			循環器	★久久 幸治	★春田 真一	★田中 規昭	★松尾 崇史
		呼吸器	★久富 恵子 ★土井 誠志	★永吉 洋介	長島 聖二 ★土井 誠志	★岩永 直樹	★長島 聖二 ★久富 恵子
		血液	★中島 潤 北之園 英明	★牧山 純也	★吉田 真一郎	牧山 純也 中島 潤	★吉田 真一郎
		神経		岩永 洋	鳥 智秋(午前は再来のみ)		岩永 洋
		リウマチ・膠原病	寶來 吉朗		岩永 希	岩永 希	
		循環器			於久 幸治(再来のみ)		
	午後	神経	山田 寛子				
		血液					★北之園 英明
	小児科	午前	★田中 茂樹(神経) ★橋本 和彦(新生児・乳児) ★桑原 義典(一般) ★本田 涼子(一般・神経)	★安 忠輝(一般) ★瀧口 陽(新生児・乳児) ★金城 勤也(一般)	★金城 勤也(一般) ★和泉 啓(内分泌) 本田 涼子(再来のみ) ★青木 幹弘(新生児・乳児)	★桑原 義典(一般) ★庄司 寛章(一般)	★田中 茂樹(神経) 本村 秀樹(心臓・再来のみ) ★青木 幹弘(一般) ★安 忠輝(一般)
午後		本村 秀樹 桑原 義典(心エコー)	田中 茂樹(神経) ★本村 秀樹(心臓)	一ヶ月健診	青木 幹弘 橋本 和彦 瀧口 陽 庄司 寛章 土居 美智子		
精神科	★橋口 知幸 蓬萊 彰士(午前のみ)	★橋口 知幸 蓬萊 彰士 田中 大三	★蓬萊 彰士 橋口 知幸	★蓬萊 彰士 橋口 知幸 田中 大三	★田中 大三 橋口 知幸		
皮膚科	★三根 義和	★大久保 滯	★三根 義和	★大久保 滯	★三根 義和		
外科	★黒木 保(肝・胆・膵・消化器) ★徳永 隆幸(小児) ★北里 周(肝・胆・膵・消化器)	★前田 茂人(乳腺・甲状腺) ★渡海 大隆(消化管) ★森田 道(乳腺・甲状腺)	★藤岡 ひかる(肝・胆・膵・消化器)	★前田 茂人(乳腺・甲状腺) ★谷口 堅(食道・胃・大腸) ★森田 道(乳腺・甲状腺) 永田 康浩(食道・胃・大腸)	★竹下 浩明(胃・大腸) ★久芳 さやか(乳腺・甲状腺)		
	呼吸器外科						
心臓血管外科	午前		★田川 努 ★持永 浩史 ★有吉 毅子男 ★尾立 朋大	濱脇 正好(再来のみ)	★濱脇 正好(小児心臓外科) ★有吉 毅子男 ★尾立 朋大 ★小野 智恵 ★佐藤 慧		
脳神経外科	★戸田 啓介 ★牛島 隆二郎	★堤 圭介	★日宇 健		★浅原 智彦 ★内山 迪子		
整形外科	★浅原 智彦 内山 迪子	★熊谷 謙治 依田 周 崎村 俊之 中島 武馬	★崎村 俊之 中島 武馬	熊谷 謙治 ★依田 周	浅原 智彦 ★内山 迪子		
リハビリテーション科	浅原 智彦	中島 武馬	崎村 俊之	依田 周	内山 迪子		
形成外科	藤岡 正樹 石山 智子		福井 季代子 石山 智子	藤岡 正樹	福井 季代子		
産婦人科	梅崎 靖 福田 雅史	安日 一郎 山下 洋	菅 幸恵 杉見 創 産褥1ヶ月検診(午後) ★松屋 福蔵	楠田 展子 五十川 智司 産褥1ヶ月検診(午後) ★山崎 安人	安日 一郎 菅 幸恵 ★大仁田 亨		
泌尿器科	★大仁田 亨 ★松屋 福蔵						
移植後フォローアップ外来	松屋 福蔵		松屋 福蔵				
耳鼻咽喉科	田中 藤信 奥 竜太 久永 将史	加瀬 敬一	田中 藤信 奥 竜太 久永 将史	奥 竜太	加瀬 敬一 田中 藤信		
眼科	稲本 美和子 諸岡 美智子 黒崎 智加 高畑 太一 中尾 志郎	稲本 美和子 諸岡 美智子 黒崎 智加 高畑 太一 中尾 志郎		稲本 美和子 諸岡 美智子 黒崎 智加 高畑 太一 中尾 志郎	稲本 美和子 黒崎 智加 高畑 太一 中尾 志郎		
放射線科		溝脇 貴志 放射線治療			溝脇 貴志 放射線治療		
麻酔科(漢方)(午前のみ)		谷口 美和(院内紹介のみ)					

※当院は地域医療支援病院です。初めて受診される場合は、原則、紹介状が必要です。『かかりつけ』等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に保険外併用療養費として5,000円をご負担いただきます。特に、専門外来の受診には予約が必須です。お近くまたはかかりつけの医療機関にご相談いただき、『初診予約票』と『紹介状(診療情報提供書)』を用意してからご来院ください。

【予約受付時間】月～金 8:30～16:30(16:30以降については、翌日の取扱いとなります)

【休診日】土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室

問い合わせ・資料請求・予約; TEL.0120-731-062 FAX.0120-731-063

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する